

第2章

まちを使う

アジヤ的混沌が 魅力のまち

● 西区／横浜西口パルナード

横浜西口パルナードは不思議なまちである。

「ファッション・ビル ヴィブレ」と「東急ハンズ」の間のわずかな距離に、デイスカウント・ショップ、ブティック、ラーメンド、ファースト・フードの店、ゲーム・センター、ビジネスホテルなどが道の両側に並び、その合間にスーパ、床屋、印章屋、米屋、八百屋など生活圏の店がある。横丁は飲み屋、食べ物屋がぎっしり。ここは「街の繁華街」なのか「町の商店街」なのか、いまいち判然としない。だが、狭い通りにあふれるたくさんの方の波を眺めているうち、多様さが不思議な活力を生み出している、このアジア的な混沌こそがこのまちの魅力なのだと思います。

通りの途中にかかる南幸橋に立って辺りを眺めると、どことなく雰囲気的道頓堀。橋のたもとにタコ焼き屋さんがあったら、もう大阪やね、と思いつつ橋を渡ると、本

当にタコ焼きの屋台があった。若者が並んで順番を待ちながら、うれしそうにタコ焼きをひっくり返すおじさんの手技を見つめている。残念ながら、誰もが川の景観に背を向けているところが道頓堀と大きく違う。横浜もこの辺りは水のまちなのに。

横浜西口の開発が始まったのは、昭和三十年代初頭から。まず駅前に横浜駅名品街（のち相鉄ジョイナス）が誕生し、それをきっかけに次々と大型店が生まれる。やがて、その周辺に商店が集まり、西口五番街、パルナードなどの商店街に発展していった。このまちの朝は早い。午前六時。まだ眠っているまちの中で、ドーナツ・ショップにはもう明かりがともり、コーヒーを飲み、足早に駅にいそぐ人の姿が見える。やがてじわじわと出勤する人々の姿が増え、次々に駅に吸い込まれていく。八時台には通勤、通学の人波はピークを迎え、九時過ぎ、まちはいっせいに活動を始める。

十時頃から夕方までは、主婦と学生のまち。のんびりと行き交う人波が、朝とは違う印象を通りに与えている。ヴィブレ周辺には、おしゃべりを楽しむ学生たちが、グループごとにとむろしているのが見える。夕方から夜八時にかけてが、このまちのピーク。年代も職業も性別も違う人々が入り乱れ、かなり混雑した状態が続く。家路を急ぐ人、買い物をする人、同僚とちよつと一杯の人。若いカップルも目につく。時間が遅くなるにつれて主婦層の姿は消え、学生、サラリーマン、OLがほぼ同じ割合で行き交う。一定方向に向かわず、文字通り縦横無尽に人波が動きまわっているのも、このまちの特徴のようだ。

八時を回ると閉店する店が増えはじめる。通りはうす暗くなってくる。だが、まだあちこちに学生や若いサラリーマンの輪ができて、なにやら笑いさざめいている。



横浜西口の顔も、日中はのんびりとした雰囲気

午前一時、人影はもうまばらである。先ほどまでの喧噪がうそのような静けさが辺りを包み、パルナードの一日は終わりを告げた。

この日、パルナードに来た人への定点観測調査では、住んでいるのは「この近く」という人が昼間は六割、夜は二割を占めていた。どうやら横浜西口パルナードは、昼間は近隣住民が利用する「町の商店街」、夜は不特定の人々が集う「街の繁華街」という、二つの顔を持ったまちであるらしい。



夜になれば、また一味違うまちの姿に



パルナードは学生たちにも人気のスポット

第2章

まちを使う

なんとなく やってくる場所

● 中区／山下公園

のひとときをしばし共有する。

昼になると、ベンチでお弁当を広げるO
Lやサラリーマンで、にわかに公園は賑や
かになった。昼食後の軽いスポーツや散歩
を楽しむ人もあり、公園はビジネス街のの
どかな昼下がりといった光景に変わる。

午後は、家族づれ、カップル、横浜見物
の女性グループ、学生たちが入れ替わり立
ち替わり、ぶらぶらとやってきては、海や
赤い靴の女の子の像を背景に写真を撮り、
少しベンチに坐って、またどこかへ立ち去
っていく。

公園の午後のピークは夕方。観光客や学
生たちにまじって、グループや個人のジョ
ギング姿が増える。若いカップルがほとん
どのベンチを占領し、何事かささやきあつ
たり、写真を撮りあってはしゃいだり、こ
ちらは二人だけの至福のひとときを楽しん
でいる。

ほの暗くなってきた七時少し前。会社の
帰りらしい中年男性が一人、茶封筒を胸に
抱え、海を見つめて放心の態で立っていた。
そぞろ歩きのカップルがぶつかりそうにな

っても、気がつかない。三十分ほどそうし
ていたが、やがて元気を取り戻し、足早に
立ち去っていった。ああやって時々、海に
癒されに来る人も多いことだろう。

夜も八時を過ぎると、さすがにカップル
も少なくなる。近くのホテルから披露宴帰
りらしい一団がやってきて酔いをさまして
いったあと、公園は突然の静寂に包まれた。
定点観測調査によれば、この日、公園に
来た人のうち、「この近く」からという人
が意外に多く約六割。また、ほとんど毎日
という人も七割近くに達した。来た目的が
明確でなく、なんとなく来てしまった人が
多いのも、まち中の公園らしい。気軽にふ
らりと立ち寄って、リフレッシュしていけ
る場所。山下公園は、まさにまちのオアシ
スなのだ。

桜木町から歩道の絵タイルをたどって歩
いていくと、山下公園にぶつかる。公園に
入れば、目の前は海。都市の海辺は、かな
りの部分を工場や施設に占拠され、一般の
人々が海を眺めることのできる場所はそれ
ほど多くない。それだけに貴重な都市の海
辺の公園である。

大正十二年の関東大震災により、瓦礫と
化した横浜。その瓦礫を埋め立ててできた
山下公園も、もう誕生から七十年たった。
緑の木陰に包まれ、優雅に氷川丸をつない
だ姿は、ミナト・ヨコハマを代表する風景
として、内外の人々に変わらぬ人気を集め
ている。

公園の朝は静かに始まる。十時過ぎまで、
犬の散歩の人以外、人影はあまり見られな
い。

十一時頃、日当たりのいいベンチに腰を
降ろして海を眺めていたら、小さなリュッ
クを背負った姉妹が、母親に連れられて



静かな公園の朝



みなと・ヨコハマに憩うカップルたち



山下公園は誰もが気軽にひとときを過ごせる場所

第2章

まち

まちを使う

快適環境は 住民の手で

● 泉区／緑園都市

「緑園に住むことは大きなプライドです」
住民のこの言葉に、迷わず納得してしま

う。
相鉄いずみ野線緑園都市駅に降りると、
駅舎や駅前広場、それに続く歩行者専用通
路の思いきった贅沢さに圧倒される。ギヤ
ラリーのある文化会館やコンサートの開け
るコミュニティセンター、スポーツクラブ
などを備えたまちは、新しいまち特有の
若々しい気前のよさにあふれていた。

昭和五十一年、相鉄いずみ野線の開通と
前後して、鉄道会社により沿線数カ所の大
型住宅地開発が始まる。緑園都市は、その
中でももっとも大きなまちとして、六十一年
に分譲が開始された。

このまちのユニークなところは、ディベ
ロッパーが土地を売るだけでおしまいにし
ないで、住民と一緒にまちづくりを
進めていること。あらかじめすみずみまで
設計されたこのまちの景観に引かれて住む

人が多いので、現在の美しさを保つために
も、地域の人たちの協力は欠かせないのだ。
そこで、従来の自治会活動だけでなく、住
環境全体に関わる住民主体のまちづくり組
織「緑園都市コミュニティ協会(RCA)」
を結成して、さまざまなイベントや活動を
行い、人々の地域への関心の掘り起こしを
図っている。

協会のモデルは、アメリカのニュータウ
ンで行われているHOA(ホームオーナー
ズ・アソシエーション)方式で、共有する
施設や場所の維持・管理を住民の手で行お
うとするもの。

「いわばマンション管理組合を広げたく
のですね」というのは、鉄道会社から出向
しているRCA事務局長の秋山絃さん(51)。住
民の活動の補佐役である。

秋山さんと一緒にお話を聞かせてくださ
ったのは、住民代表の小川洋さん(55)と竹内
良子さん(40)。ともに、RCAの広報担当理

事である。竹内さん
は、「みなさんが知
り合いを広げる場
になれば」と、RCAの
活動に打ち込んでい
る。



▲緑園都市駅前には商業、文化施設なども整備されてきている

◀積極的にまちづくりに取り組むRCA。左より竹内さん、小川さん、秋山さん

環境運営委員会、文化活動運営委員会など
七つの委員会が設けられ、各委員会のもと
に協力したい住民が自由に参加するという
方式。それぞれまちの緑化のために無料で
プランターを配ったり、プロを招いてコン
サートを開いたり、スポーツ大会やサーク
ル活動を開催したりと活発に活動中という。
ここではコンサートもスポーツも、個人
ではなく家族単位の参加が原則である。
「みんなでつくるまちにしたいから」と小
川さん。子どもの頃から地域活動になじん
でもらうための、先を見通した方策なのだ。
若いまちなので仕事を持っている人が多く、



緑園都市では、住民主体型のまちづくりを模索している

まだまだ自分たちのまちづくりに関わり
という人が少ないのが小川さんたちの悩み。
今年三月RCAは、HOA発祥の地、ア
メリカ・ニュージャージー州のラドバーン
という住宅地と日本初の姉妹提携を結んだ。
「住民参加」ではなく、「住民主体」の住宅
地づくりのありようを学ぶことは、今後の
緑園都市にとってばかりでなく、横浜市全
体にとっても貴重なことに違いない。

純粹な住宅地のように見える緑園都市だ
が、このまちを利用する人の目的はさまざ
まだ。緑園都市駅前に来た人への定点観測
調査では、約九割が近隣の居住者。目的は
「買い物」がトップ。「通勤・通学途中」が
それに次ぎ、「文化活動」という人もいた。

緑園都市では、いま、住宅はもちろん、商
業・文化施設などの整備も含めた、総合的
なまちづくりが進行中である。